

# 地元小中学生の学び支援



贈呈式に臨む太宰社長（左から2人目）と山田市長（右から2人目）ら

## J2ベガルタ仙台と連携

### 白石倉庫

【宮城】白石倉庫（太宰栄一社長、宮城県白石市）は地元企業と連携し、白石市内の児童・生徒の暗唱学習を後押ししている。進捗状況をチェックする「夢」通帳の製作に協力。暗唱を通じて生きる力を育む取り組みをサポートする。

同市教育委員会は2021年度から、市内全ての小・中学校の子供たちの暗唱学習を促進する取り組みを開始した。子供たちは小学1年から中学3年までの9年間で、暗唱読本「夢」を使い、99編の小説や詩、英文などの暗唱に挑戦。思考力や表現力を育てていく。こうした活動に、日頃か

ら地域貢献に積極的なサッカーJリーグ2部のベガルタ仙台が着目。山田裕一市長と話し合い、暗唱を進めていく過程を確認できる「夢」通帳を作ることになった。製作に当たってはベガルタ仙台に加え、白石倉庫や白石エリアの企業も協賛。通帳の裏面に、協賛企業名のクレジットを入れた。

1月20日には贈呈式を実施。太宰社長ら協賛者や山田市長、代表児童らが出席し、協賛者には感謝状が贈られた。完成した「夢」通帳は、1月末までに各校へ配布された。本紙の取材に対し、太宰氏は「地元企業として、地域の子供たちの学びの支援につながればうれしい。色々な文章に触れ、自分の興味ある分野に気付ききっかけとして欲しい」と期待。同市教委は「学力向上に取り組んでい

る中、地域の企業に協力していただき大変感謝している」とした。（今松大）